



*Let's start with  
what we can do!*

宇都宮市教育センター  
所長 廻谷 敦士

昨年度は、新時代「令和」の幕開けという、慶事による「非日常」でのスタートでしたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の世界規模の流行という災害による「非日常」でのスタートとなりました。

本市におきましても、令和元年度の卒業式及び修了式、令和2年度の始業式・入学式、学校再開に向けた分散登校など、部分的な登校を挟みながら、3月2日から5月29日まで、全小中学校が休業となりました。6月1日より新型コロナウイルス感染症への対策を施しての学校再開となりましたが、全国的に感染者が増加した7月から8月にかけての第二波の到来など、まだまだ先の読めない状況となっております。

この新型コロナウイルス感染症による緊急事態は、様々な課題を明確にしました。子どもの安全を考え、学校休業となった教室・教職員を活用しての「子どもの家」の開設、会計年度任用職員の業務の在り方、学びの保障とICT環境の問題、児童生徒の心のケア、行事や学習内容を含む令和2年度の教育課程の再編成等々。この事態を乗り越えるために、解決していかなければならない課題は山積みです。

このように多くの「ねばならぬ」に囲まれたときこそ、あれもこれもと考えずに、それぞれの立場でまず「できることは何か」を考え、行動を起こし、積み重ねていくことが大切であると考えます。

宇都宮市教育センターでは、教職員研修、情報教育、教育相談（特別支援教育、不登校対策）等の事業を推

進しておりますが、教職員研修につきましては、感染症拡大防止、また、学校再開後の教員が児童生徒と向き合う時間を確保することを最優先に考え、8月までの教職員研修をいち早く中止・延期するとともに、教職員の資質向上のためにできること（研修資料の配付・オンライン研修の検討・3密を避けるなど工夫しての実施）を進めてきました。情報教育におきましては、「GIGAスクール構想」による1人1台の端末整備が前倒しされ注目されていますが、完全な運用までにはまだまだ時間がかかることを踏まえ、学校休業時の双方向のコミュニケーションツールとなる「まなびポケット」とオンラインでの学習の機会を確保するための「eboard ホームスクール」の2つのクラウドサービスの導入、及び学校アカウントによるYou Tube、ZOOMの活用など、緊急事態宣言下に求められたICT環境の整備を急ピッチで進めてまいりました。教育相談におきましては、市内全域から来所するという状況から感染拡大の基点となり得る危険性を踏まえ、4月17日より相談業務を中止しておりましたが、緊急事態宣言延長を見据えての電話相談の準備、宣言解除を受けての感染症拡大防止策（場・時間の工夫、手洗い・消毒の徹底等）を講じての相談再開と、それぞれの立場でできることを考え、積み重ねてまいりました。

新型コロナウイルス感染症に関しましては、ワクチンや処方薬等の開発を踏まえると、「完全な収束まで1年以上かかる」との専門家の意見も聞かれます。

今後とも社会情勢等をしっかり見据えながら、児童生徒、教職員、学校のために、私たち教育センターができることを考え、実践していきたいと思っておりますので、御理解・御協力をよろしくお願いいたします。



## 特別支援教育の推進

本市では、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、自己の能力を最大限に発揮し、社会の一員として地域の中で共に生きていけるように、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を目指すことを基本理念とした、第2次宇都宮市特別支援教育基本計画「うつのみや 子ども かがやきプランⅡ」（平成27年3月策定）に基づき、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、特別支援教育を推進しています。

ここでは、今年度の教育センターにおける特別支援教育の推進のための取組をご紹介します。



このマークは、計画のシンボルマークです。宇都宮の頭文字の「U」と「人が互いに向き合い手を繋いでいる姿」「笑顔」を表しています。

### 【令和2年度の取組】

○特別支援学級等担当教員の指導力や学級経営力の向上に取り組みます。



#### ・特別支援学級等担当教員を対象とする教職員研修の実施

特別支援学級等を担当する教員の指導力や学級経営力を向上するため、ベテラン教員の授業の動画を効果的に活用するとともに、特別支援学級担当者としての基礎基本を実践的に学べるように取り組んでいきます。

特に、新たに特別支援学級等を担当する新任担当教員に対しては、学校と教育センター双方が研修を効率的に実施できるようにするため、テレビ会議システムによる指導を取り入れるなど、実施方法を工夫していきます。

#### ・教育センター職員による学校訪問の実施

学校生活適応支援アドバイス業務等の教育センター職員が、学校の要請に応じて学校を訪問し、児童生徒の対応法や学級経営についての助言を行っていきます。

#### ・指導資料の作成

教育センターの調査研究において、教員が普段の授業や生活場面において行う合理的配慮の考え方の基礎基本や、対応例などをまとめた指導資料を今年度中に作成します。

### 【学校に配置している市教委会計年度任用職員】

○教育センターでは、特別支援教育に係る様々な業種の市教委会計年度任用職員を配置して、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行っています。

- ・教育センター 学校支援業務 特別支援教室（かがやきルーム）担当 93名
- ・教育センター 学校支援業務 特別支援学級担当 27名
- ・教育センター 医療的ケア支援業務 7名
- ・教育センター 学校生活補助業務 3名
- ・教育センター 要配慮学級緊急対応業務 18名



# 不登校対策

## 教育相談室機能の充実

令和元年度は、教育相談室における受理ケースが 1,368 件、延べ相談回数 10,167 回(就学相談を含む)で、このうち、不登校を主訴とする相談では 268 件に対応しました。より専門的で相談者に寄り添った対応に努めています。

相談内容	不登校・登校渋り、「適応支援教室」や「相談学級」の利用に関すること、 そのほか集団不適應、情緒不安定など
相談日時	(月～金曜) 9:00～17:00 (日曜) 13:00～17:00
申込方法	電話 028-639-4380<予約制>

## 不登校対策の推進

不登校が心配される児童生徒の早期発見・早期対応の取組の徹底と、小・中学校が連携した支援体制の強化により、不登校の減少を目指します。

### <学校における不登校対策>

～不登校対策の手引書に基づいた組織的・計画的な取組～

- ・新たな不登校を生まないための合言葉「1日休んだら電話連絡、2日続けて休んだら家庭訪問、かわり続けてきっかけ探し ～そうなる前に毎日ひと声～」の実施
- ・不登校の兆しを把握するための「欠席状況共有シート」の活用
- ・楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)を活用した学級経営の充実
- ・PDCAサイクルを意識した校内支援

### <教育センターにおける不登校対策>

- ・「不登校対策チーム」による学校支援
- ・教職員向け「不登校対応力向上研修」の実施
- ・別室登校の児童生徒を支援する学生ボランティアの派遣
- ・スクールカウンセラー・メンタルサポーターの派遣 ※メンタルサポーターは令和元年度より全中学校配置
- ・保護者への啓発資料の作成・配付



## 不登校の児童生徒が、学校復帰や社会的自立に向けて新たな一歩を踏み出すための支援の場

### 適応支援教室「とらいあんぐる」

教育センターでの相談開始後、当面の居場所として気軽に利用できる教室。ここに通いながら、学校復帰を目指したり、まちかどの学校の利用や相談学級入級などを考えたりします。



### 適応支援教室「まちかどの学校」

不登校児童生徒の状態に合わせて、個別活動と教室に似た形式で行う小集団活動を行っています。多くの地域ボランティアの方に協力していただくことで、児童生徒の活動の幅を広げるとともに、社会性の向上を図っています。



### 相談学級

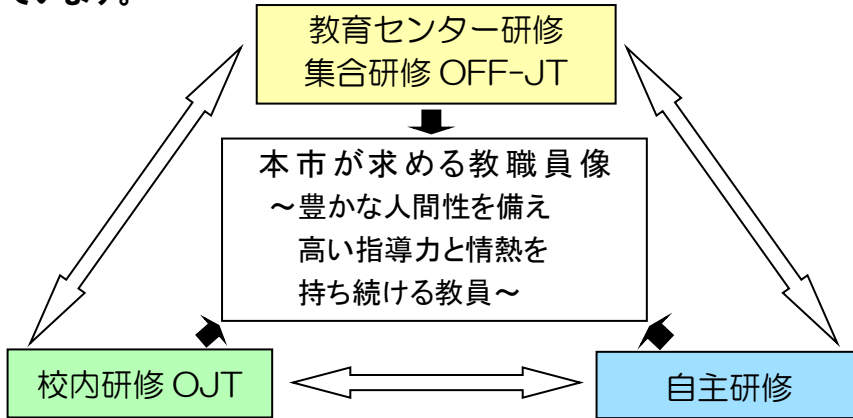
不登校対応を専門とする特別支援学級として、学習や運動に時間をかけてじっくりと取り組めるよう独自の日課を編成しています。校内設置のメリットを生かし、通常の学級への授業や学校行事への参加等、活動の幅を広げることもできます。転校手続きを行って入級します。

○ 築瀬小学校、旭中学校に設置

利用に際しては、教育センターでの相談が必要です。

# 教職員研修

宇都宮市教育センターは、本市の教職員として求められる資質能力を確実に育成するため、「宇都宮市教職員研修計画」(以下、「計画」という)を策定し、キャリアステージに応じた研修を実施しています。



本市が求める教職員像の具現化に向け、「教育センター研修」(集合研修(OFF-JT))を基盤にしつつ、学校における校内研修(OJT)や教職員の自主研修を相互に関連させ、研修を計画的に実施しています。

教育センター研修	ステージⅠ おおむね1～5年目	ステージⅡ おおむね6～10年目	ステージⅢ おおむね11～19年目	ステージⅣ おおむね20年目～
<b>基本研修</b> 教職員のキャリアステージに応じて必要とされる資質能力を育成する研修	初任者研修 2年目研修 3年目研修 5年目研修	中堅教諭等 資質向上研修	20年目研修	
<b>専門研修</b> 職位や職務等に関する知識・技術を身に付けたり、教育に関する喫緊の課題並びに教職員のニーズに対応して指導力の向上を図る研修	学校教育相談 基礎研修 (教職4年目) <b>指名研修</b>	特別支援教育の視点を取り入れた授業力向上研修 (教職6・7・8・9年目)	コミュニケーションスキルアップ研修 (教職15年目) 学校運営推進リーダー養成研修 (指名された教員)	キャリアマネジメント 研修(教職30年目)
	<b>指定研修</b> 基本研修を補完する形で、本市独自に経験年数に応じて受講者を指名して実施			
	<b>教科等・職務別研修</b>		<b>校長研修等職位別研修</b>	
	<b>指定研修</b> 職位や職務に応じて受講者を指定して実施			
	<b>希望研修</b> 受講希望者を学校から募集して実施			

## 専門研修の充実

### <今年度の重点>

新学習指導要領への対応、不登校への未然防止及び対応力向上など、特に本市の課題であるものに重点を置いて研修を実施します。

- **新学習指導要領の趣旨を踏まえた研修**
  - ・ 小学校プログラミング教育を推進するリーダー教員を育成する研修
  - ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践力の向上を図る研修
- **本市の課題を踏まえた研修**
  - 【キャリアステージに応じた研修】
    - ・ 若手教員の授業力及び学級経営力の向上を図る研修
    - ・ 次世代の学校運営を推進するリーダーとしての資質・能力の向上を図る研修
  - 【今日的課題に対応した研修】
    - ・ 不登校の未然防止及び対応力向上に係る研修
    - ・ 郷土愛を育むための「宇都宮学」の実践に対する指導力の向上を図る研修



### 校内研修

- ・ 若手教員育成システム
- ・ 若手事務職員育成システム
- ・ 校内研修サポート事業

### 自主研修

- ・ 教員マイスター制度
- ・ 授業実践力養成サポート事業
- ・ 公開講座「教育なう」

# 調査・研究事業

## 1 今日の教育課題に関する調査・研究

学校教育の充実及び振興を図るために必要な事業として、教育に関する今日の課題等について調査及び研究を行っています。

- 「小・中学校で行う合理的配慮について」の調査研究 【令和元～2年】  
障がいのある児童生徒への適切な合理的配慮の提供などの対応について指導資料を作成し、学校組織の対応力強化と教職員の指導力向上を図るものです。
- 「小学校における『投の運動の指導事例集』の作成」に関する調査研究 【令和2年(単年)】  
小学校体育部会が作成したモデルの年間指導計画に「投の運動」が取り入れられたことに伴い、「投の運動」の指導事例集を作成するものです。
- 「冒険活動事業の教育効果を明らかにするための研究について」の調査研究 【令和2～5年】  
平成29年度から令和元年度実施の調査研究である冒険活動教室における体験活動が児童生徒の道徳性に与える影響について、大学との連携を図りながら課題を明確にし、整理していくものです。

## 2 学校や教員の主体性を重視した公募制による調査・研究

各学校の校内研修（授業研究会）を支援し、校内研修の効果的な在り方を追求することを通して、校内研修を活性化し、学校組織の協働性や同僚性の向上を図る取組を行っています。

### ○ 校内研修サポート事業

#### ① 実施方法

- ・ 校内研修等への大学教員等講師の派遣（年間4回程度）
- ・ 授業実践と結び付いた実践的研究
- ・ 調査研究の成果を研修に反映

#### ② 研究協力校

- |           |                     |             |
|-----------|---------------------|-------------|
| ・ 戸祭小学校   | < 埼玉大学教育学部准教授       | 七木田 文彦 先生 > |
| ・ 宝木小学校   | < 宇都宮大学大学院教育学研究科准教授 | 司城 紀代美 先生 > |
| ・ 平石中央小学校 | < 元宇都宮大学大学院教育学研究科教授 | 松本 敏 先生 >   |
| ・ 平石北小学校  | < 宇都宮大学大学院教育学研究科教授  | 青柳 宏 先生 >   |
| ・ 横川西小学校  | < 宇都宮大学大学院教育学研究科教授  | 人見 久城 先生 >  |
| ・ 河内中学校   | < 宇都宮大学大学院教育学研究科准教授 | 小野瀬 善行 先生 > |
|           | < 宇都宮大学大学院教育学研究科准教授 | 菊地 高夫 先生 >  |

## 3 地域素材のデジタル教材化

普通教室での授業で地域素材の活用が図れるよう、デジタル教材化しています。

### ○ 令和元年度作成コンテンツ

- ・ 「月と星」 【製作者】デジタルコンテンツ作成委員会（理科）  
空や月の動画と写真を豊富に掲載し、4・6年生の学習に役立つようまとめてあります。
- ・ 「田原西小の出土品」 【製作者】田原西小学校  
田原西小がある田原地区の遺跡や出土した土器を紹介しています。

## 4 教育に関する資料及び情報の収集・提供【教職員対象】

教育に関する資料及び情報の収集・提供を通して、自主研究への支援を行っています。

### ○ 教育関係図書・資料の収集と整理

- ・ 最新の教育課題等に沿った教育関係図書等を収集しています。
- ・ 図書資料に関する情報は、学校用グループウェアから検索できます。

### ○ 教育関係図書・資料の貸出

- ・ 教育センターに来所し、資料を確認して借りることができます。  
(火・木曜日のみ)
- ・ 学校用グループウェアの教育資料検索サービスにより、学校から貸出申請をすることができます。逡送を利用する方式により、図書資料の貸出・返却の利便性の向上を図っています。



# 情報教育推進事業

近年の急速な情報化の進展を踏まえ、学びのICT環境を整えることにより、情報社会を多様な人々と関わりながら主体的に生き抜く子どもを育てることを目指して、新学習指導要領及び、本市の課題を踏まえた教育の情報化を体系的な推進に取り組んでいます。

## 児童生徒の情報活用能力の育成

プログラミング教育年間指導計画に基づく小学校プログラミング教育の実践

プログラミングに係る体験教室の開催

情報モラル教育年間指導計画に基づく情報モラル教育の実践

## ICT活用による授業力の向上

プログラミング教育などの情報教育研修の充実

タブレット導入校を対象とした活用研修の実施

タブレット活用支援WEBサイトの更新



## デジタル教材や教育用データベースの活用

WEBカリキュラムセンターのデータ収集と活用

デジタル教材・デジタル教科書の整備

デジタル教材作成と活用

## 学校ホームページの支援とセンターホームページの充実

CMS化した学校ホームページへの活用支援

スマートフォン等からの閲覧対応

ホームページによる定期的な情報発信

## 情報セキュリティ対策

情報セキュリティポリシーの周知

センターサーバによるセキュリティ対策

学校設置機器によるセキュリティ対策

## 教育用・校務用パソコンの運用とネットワークの整備

学校用グループウェアの安定運用

タブレット型パソコンの計画的な導入

校務用・教育用ネットワークの整備



## 今年度の重点

新学習指導要領実施による小学校プログラミング教育の開始、1人1台端末と高速大容量の校内ネットワーク整備を進める「GIGAスクール構想」の実現など、学校ICT環境が大きく変わります。

### ○ プログラミング教育の推進

「宇都宮市小学校プログラミング年間指導計画」をもとに、教職員研修の充実など、本年度から必修化となる小学校でのプログラミング教育を推進していきます。

### ○ GIGAスクール構想の実現に向けた取組

児童生徒が充実したICT環境の中で学習できるよう、1人1台端末の導入と高速大容量の校内ネットワーク整備（クラウドサービス「まなびポケット」導入）、活用計画の作成を進めていきます。